社会と理科の自主学習はどうしたらいいか

　３年生では、１，２年生で学習していた生活科が社会と理科に分かれます。
　どちらも家庭で学習する際は、iPadに入っているドリルパークと動画の視聴がおすすめです。

　特にNHK for schoolは、各学年の年間の内容に対応しているので、順番に見ていくだけ全ての内容を網羅できます。
　構成から映像の中身まで質が高く、なかなか体験したり直接見たりできないものを見ることができます。

※「NHK for schoolならなんでもいいよ」と言うと、魅力的な番組がたくさんあって、好きなものを見てしまいます。歴史やプログラミングなど興味がある番組を見たがること自体は素敵なことですが、「見たいものを見る時間」は別に設定しましょう。
　何の学習をする時間なのかをしっかりと意識してもらうこと、自律して学習できるようになるまでは一緒に視聴することが大切です。

　以下は３年生の社会、理科の番組です。

社会「コノマチ☆リサーチ」

理科「ふしぎエンドレス」

理科「ふしぎがいっぱい」

理科「ふしぎだいすき」

　この３つの番組は扱われる理科の内容は同じですが、放送時期、対象児童、目的が異なるそうです。（以下チャットGPTさんがまとめてくれました。）

番組名	放送時期	対象児童	目的・ねらい	主な特徴
ふしぎ大好き	2005年～2011年	小学校1・2年生	身近な自然や現象に興味をもち、「ふしぎ」に気づく力を育てる	・アニメや実写映像で楽しく構成 ・キャラクター中心のやさしい語り口
ふしぎがいっぱい	2011年～2018年	小学校3・4年生	観察・実験を通じて自然のふしぎを理解し、「なぜ？」と考える力の基礎を養う	・理科の導入に最適 ・単元ごとの自然現象をわかりやすく紹介
ふしぎエンドレス	2018年～	小学校5・6年生中心（＋3・4年単元含む）	理科的な探究心を高め、「どうしてそうなるのか？」を考え続ける姿勢を育てる	・思考の連鎖を促す「エンドレス構成」 ・学びを深める問いかけや実験映像が豊富

　どれも３年生の理科の内容が含まれているので、一番合うものを選んで見ていくとよいでしょう。

昔はあった！？１、２年生の理科・社会

小学校における社会科と理科は、「～を覚えないといけない」といった知識よりも、見方や考え方を育てることを重視しています。

現在は存在しませんが、実は１９９１年までは、１，２年生でも社会科、理科があったそうです。（私が小学校に入学する直前です）
ところが、低学年児童には抽象思考は難しいこと、より体験的・直接的な学習をすることで、社会科・理科の芽を育てることを目指した方がよいと、１、２年生の社会科・理科が廃止され生活科が始まることになりました。

当時の社会科と理科の先生たちは、社会と理科がなくなり、生活科に統合されることについて、猛反対したそうです。
しかし、実際に始まってみると社会の先生も理科の先生も、「これはすばらしい教科だ」「五感を用いた直接的で体験的な学習、生活の中の課題を解決する学習は非常によい」と一気に態度を改めたそうです。
小さな子に抽象的な思考や知識、概念を与えようとするより、体験的な学習をした方が、後々教科の見方・考え方が育っていくと判断されたのです。
つまり、豊かな生活体験こそが社会科・理科の見方、考え方の基礎を養うということです。

生活科は２年生で終わりですが、まだまだ体験的に学ぶことは重要です。
３年生の社会では社会見学に行き、理科では観察や実験をたくさんしていきます。
具体的な体験の例は、上に挙げたNHK for schoolの番組を見ると参考になると思いますので、ぜひご家庭でも、社会科的・理科的な体験をしてみてはいかがでしょうか。